

冬には冬のたのしみが！

24日の午後からこの冬一番の積雪となりました。風も強く、体の小さい低学年のみんなは傘と一緒に吹き飛ばされないように気をつけて帰っていました。大雪の予報が出ていましたが、朝は晴れていたからか本格的な防寒着や手袋を持ってきていない子もいました。「備えあれば憂いなし」…昔の人が言うことにまちがいはありませんね。

翌日はスキー教室ということで、係はスキー場の方と連絡を取り合っていました。午後3時からはリフトが強風で営業を取りやめたとのこと。しかし、夜からは風がおさまってきそうだということで、25日の早朝にスキー教室を実施するかどうかの判断をすることになりました。

翌朝5時30分、職員室からスキー場へ電話をし、「リフトが動く見込み」ということを確認して「今日はスキー教室に行きます！」というメールを配信しました。児童集合は7時でしたが、6時30分には一番乗りの子どもたちが登校しました。雪かきのために出勤してくれたA先生に雪玉を投げ、早くも冬のたのしみ全開です。

7時15分にバスが出ましたが、上田大橋を渡り切る頃には9時30分を過ぎていました。雪国長野とは言え上田は降雪量の少ない土地。滅多に体験しない大渋滞でした。4年生はバスの中から周りの車に手を振り、「あっ、手を振り返してくれた。いい人だなあ！」と楽しみを見つけて遊んでいました。子どもは遊びの天才。さすがです。

スキー場には予定より1時間遅れて着きました。インストラクターのみなさんが川西っ子の到着を待っていてくれました。コロナ禍の平日です。県外からのスキー修学旅行のみなさんその他はほとんどスキーヤーがおらず、ゲレンデは貸し切り状態でした。寒さは確かに厳しかったのですが、生まれて初めてのスキーという子も多く、「雪面を滑る感覚を存分に楽しめた」一日となりました。

その翌日26日は2・3年生のスケート教室。こちらも寒い朝からスタートでしたが、日差しに加えてやる気満々での滑りで汗をかく子が大半となり、「氷となかよし」の一日になったようです。(こちらの隊長は教頭先生でした)

学校で留守番となった1・4・5・6年生は、校庭で雪遊びをしたり、雪上サッカーをしたりしていました。そんな中でも6年生はさすがです。雪がなければ1年生が上履きのまま元気に遊んでいるプレイコートの雪をかき、放っておけば凍ってしまう校舎の影の雪もすっかりきれいにしてくれました。庶務のK先生は一日がかりで雪をかく覚悟でいらしたようですが、6年生の活躍でほかの仕事ができると感謝しておいででした。

もう一つ6年生が活躍してくれたことがありました。正面玄関に入った先にある光庭に、雪だるまや雪うさぎを作って飾ってくれたのです。管理棟にやって来た子どもたちに「見てごらん、6年生が飾ってくれたんだよ。」と紹介すると、「うわー、すごい！」「かわいい～」とみんな大喜びでした。

ここに紹介したことは冬でなければできることばかりです。雪が降ったからこそできたことです。雪はすぐに融けてしまうかもしれません。でも、そのはかなさも冬のたのしみですね。それは桜の花と同じかもしれません。そして、桜は一度咲いたら散るのですが、雪はまた降ってくれるかもしれませんね。大人にとっては厄介なことも多い冬ですが、**冬にしかない冬のたのしみを子どもたちには存分に楽しんでほしい**ものです。

